

# 音楽を 通して 新しい 交流が 生まれる



『高橋真梨子ヘンリーバンド』に参加し、  
全国ツアーで多忙な日々を送る  
岐阜市出身の野々田万照さん。  
21年前、岐阜市に帰郷したことをきっかけに、  
地域の文化活動の発展にも力を入れています。



## Nonoda Manelli 野々田万照



音楽をやりたい人はいた。  
ただ機会がなかっただけ

野々田 21年前、長女の誕生をきっかけに  
岐阜市に帰郷し、住所を岐阜市に移しまし  
た。岐阜市は当時ジャズはもちろん音楽  
全体への関心度は決して高くありません  
でした。どうせ住むなら音楽が盛んなま  
ちに住みたい、盛んでないなら盛んにすれ  
ばいいと考えました。すぐに学校や病院へ  
の出前演奏を始めたのですが、10年前、岐  
阜市民会館による「ジャズポップス教室」  
が開催されることになりました。それが  
思ったより人が集まって、これならバンドが  
結成されるのではないかと考えて、「楽市  
JAZZ楽団」が結成されることになっ  
たのです。やりたい人はいたわけです。や

れていなかっただけです。やりたいけど、自  
分でバンドを作るのは躊躇してしまう。や  
るきっかけがなかったんでしょね。

高校生から70歳まで  
幅広い年齢構成

現在、団員は何名で  
構成されていますか？

野々田 45人です。高校1年生から70歳  
まで幅広い年齢構成です。経験者メインと  
初心者を中心にした2つのチームで編成  
しています。経験者チームは月1回、初心  
者チームは月2回の練習があり、そのほか  
に学校、病院、イベントに出張してほぼ毎月  
演奏の機会があります。皆さん、普段は学  
生や社会人ですからスケジュールを合わせ  
るのが難しく、実際のオフアワーはもっとたく  
さんいただいているのですが、現状では月1  
回の演奏で手一杯になっています。

同じ楽器でも  
音の出し方がまるで違う

10年前と比べて、団員のレベルは向上し  
ましたか？

野々田 うまくなりましたよ。プラスバンド  
などクラシック経験者は結構いるんですよ。

ただ、ジャズは音の出し方が違います。言  
語みたいなものです。例えばクラシックが  
英語だとしたら、ジャズはフランス語です。  
クラシック経験者はどうしてもクラシック  
の吹き方になってしまう。それをフラ  
ンス語に直すのにずいぶん時間がかかり  
ました。最近ようやくコツをつかんできま  
した。合奏ですから、1人でも違う吹き  
方をしてしまうと、アンサンブルになりま  
せん。時間もかかりましたし、根気も必  
要でしたが、みんなよく努力してくれた  
と思います。

3年に1度は  
全員クビになる

10年間続いているメンバーもいますか？

野々田 13人いますね。ただ、3年に1度、  
オーディションを実施していて、メンバー全  
員が一旦クビになります。それまでメン  
バーだった人もすべて新しいオーディション  
で合格しないと、メンバーになることができ  
ません。下剋上ですよ(笑)。3年やると、  
友達や家族から「今年もジャズフェス出る  
んでしょ」と言われます。生活の一部にな  
りますし、愛着もわきます。でもオーディ  
ションに落ちれば、参加できません。

厳しい世界ですね。次のオーディションは  
いつですか？

野々田 5月です。中にはピクビクしている  
子もいるでしょう(笑)。ただ、3年いた人  
はやっぱり強いですよ。  
私が伝えたニュアンス  
をわかっていますから。  
いくらかうまくなってクラ  
シックのニュアンスでは  
だめです。オーディショ  
ンでは、その部分をじっ  
くり審査します。

アンサンブルが  
持つ魅力

ジャズの魅力はどんな  
ところにありますか？

野々田 合奏の楽しさ  
ですね。環境、育ち、住  
んでいるところ、年齢、性  
別がそれぞれ違う人た  
ちが集まって、音量、音  
色、音程、息継ぎもそろえて1つのかたま  
りになる。それが合奏の面白さです。私の  
役割は東京で行われている全国レベルの  
ジャズを岐阜に還元していくことだと思っ  
ています。メンバーのみんなにとっては、目か



ジャズが持つ  
暗いイメージを  
変えたい

岐阜市民の音楽に対す  
る関心度に変化を感じ  
ていますか？

野々田 大きく変わった  
と思います。毎年「ぎふ  
ジャズフェスティバル」を  
岐阜市民会館で開催し  
ますが、約1,000人  
の観客で賑わいます。昨  
年は「岐阜市信長公  
450プロジェクト」も  
あって、イベントに出る機  
会も多くて認知度も相  
当高まったと思います。

これまでジャズというと、「暗い」「夜」「タバ  
コ麻薬」のようなイメージがあったと思っ  
ています。ジャズが持つ暗いイメージを取り払  
いたかったので、コンテンツポラリーな楽曲を  
選択するようにしてきました。学校へ出

他地域のバンドと  
交流したい

これからの抱負を聞かせてください。

野々田 今までは準備期間だった気がし  
ます。これから成熟して、技術ももう少  
し伸びていくと思います。昔は公共音楽  
としてジャズは演奏できなかったんです  
よ。私たちの時代はエレキギターを持って  
いると不良と言われました。今は、ジャズ  
も市民権を得てきました。同じような  
活動を続けている他地域のバンドと交流  
したいですね。もう1つは、昨年、楽市  
JAZZ楽団で、「夢幻」信長と濃姫  
」という曲を作りました。今年は楽団  
のCDを発表したいと考えています。可  
能性は無限にありますので、いろいろなこ  
とにチャレンジしていきたいです。